. 難治性疾患克服研究の対象となっている 1	2	3座串について
. 無后性疾患兄服団九の刈家となつ(いる)		3 佚思に ノいし

主任	研究	渚;	小澤敬也	
<u>疾</u>	患	名;	骨髓線維症	

- 1. 初代研究班発足から現在までの間の研究成果について(特定疾患の研究班が独自に解明・開発し、本研究事業として公表したもの。なお、原則他の研究事業等に依存していないもの。)
 - (1)原因究明について(画期的又は著しく成果のあったもの)

	時期 及び	内容	備考
	班長名(当時)		
1	該当なし		
2			
3			

他の研究事業の成果と分かち難い場合は、備考欄に「合」と記載し理由を付記。

(2)発生機序の解明について(画期的又は著しく成果のあったもの)

	時期 及び	内容	備考
	班長名(当時)		
1	該当なし		
2			
_			
3			

他の研究事業の成果と分かち難い場合は、備考欄に「合」と記載し理由を付記。

(3)治療法(予防法を含む)の開発について

ア 発症を予防し、効果があったもの

時期 及び	内容	備考
班長名(当時)		

1	該当なし	
2		
3		

他の研究事業の成果と分かち難い場合は、備考欄に「合」と記載し理由を付記。

イ 完治に至らしめることはできないが、進行を阻止し、効果があったもの

	時期 及び	内容	備考
	班長名(当時)		
1	2007年	蛋白同化ホルモンは、骨髄線維症の貧血に対し有効で	
	(小澤敬也)	ある。	
2			
3			

他の研究事業の成果と分かち難い場合は、備考欄に「合」と記載し理由を付記。

ウ その他根本治療の開発についてもの

	時期 及び	内容	備考
	班長名(当時)		
1	該当なし		
2			
3			

他の研究事業の成果と分かち難い場合は、備考欄に「合」と記載し理由を付記。

2.「1」以外で、国内、国外を問わず、研究成果の現在の主な状況について (1)原因究明について(画期的又は著しく成果のあったもの)

	時期	内容	文献
--	----	----	----

1	2005年	骨髄線維症の	Baxter EJ et al. Acquired mutation of the tyrosine kinase Jak2 in		
		30~40%に、サ	human myeloproliferative disorders. Lancet 365; 1054, 2005		
		イトカインの	James C et al. A unique clonal JAK2 mutation leading to		
		細胞内シグナ	constitutive signalling causes polycythemia vera. Nature 434;		
		ル伝達に必須	1144, 2005		
		なチロシンキ	Kralovics R et al. A gain-of-function mutation of Jak2 in		
		ナーゼである	myeloproliferative disorders. N Engl J Med 352; 1779, 2005		
		JAK2 に遺伝	Levine RL et al. Activating mutation in the tyrosine kinase Jak2		
		子変異が生じ	in polycythemia vera, essential thrombocythaemia, and myeloid		
		ている。	metaplasia with myelofibrosis. Cancer Cell 7; 387, 2005		
2					
3					

(2)発生機序の解明について(画期的又は著しく成果のあったもの)

時期	内容	文献
1995年	サイトカインの過剰発現によって	Yan XQ, et al. Chronic exposure to retroviral
	骨髄線維症が生じることがマウス	vector encoded MGDF(mpl-ligand) induces
	の実験で示された。	lineage-specific growth and differentiation of
		megakaryocytes in mice. Blood 86:4025,1995
2003年	骨髄線維症が造血幹細胞レベルで	Reeder TL, et al. Both B and T lymphocytes
	の異常であることが示された。	may be clonally involved in myelofibrosis
		with myeloid metaplasia. Blood 101,1981,
		2003
	1995 年	1995年 サイトカインの過剰発現によって 骨髄線維症が生じることがマウス の実験で示された。 2003年 骨髄線維症が造血幹細胞レベルで

(3)治療法(予防法を含む)の開発について

ア 発症を予防し、効果があったもの

	時期	内容	文献
1	該当な		
	し		

2		
3		

イ 完治に至らしめることはできないが、進行を阻止し、効果があったもの

	時期	内容	文献	
1	2003年	少量サリドマイドとステロイド併	Mesa RA, et al. A phase 2 trial of	
		用が骨髄線維症の貧血などの症状	combination low-dose thalidomide and	
		改善に有効である。	prednisolone for the treatment of	
			myelofibrosis with myeloid mataplasia.	
			Blood 101,2534, 2003	
2	2002年	少量メルファラン投与が貧血など	Petti MC,et al. Melpharran treatment in	
		の症状改善に有効であり、効果のあ	patients with myelofibrosis with	
		った症例では生命予後の改善が期	myeloid metaplasia. Br J Haematol	
		待できる。	116,576, 2002	
3				

ウ その他根本治療の開発についてもの

	時期	内容	文献		
1	1999年	骨髄線維症に対しで造	Guardiola P, et al.:Allogeneic stem cell transplantation		
		血幹細胞移植は根治的	for agnogenic myeloid metaplasia: Collaborative study.		
		治療法になり得る	Blood 93,2831, 1999		
2					
3					

- 3.現時点において、次の事項について残された主要な課題及び今後の研究スケジュールについて
- (1)原因の解明について

	課題	解決の可能	今後の研究
		性	スケジュール
1	JAK2 に遺伝子変異がない	期待できる。	本邦症例を集積し、JAK2 に遺伝子変
	症例における原因の解明		異がない症例において、Jak-Stat シ
	(JAK-STAT シグナル伝		グナル伝達系を構成する分子の遺伝
	達系構成分子の網羅的検		子変異の有無を検討する。
	討)		
2			
_			
3			

(2)発生機序の解明について

	課題	解決の可能	今後の研究
		性	スケジュール
1	上記の検討を行うと発症機序も明ら	期待される	同上
	かにできることが期待される。		
2			
3			

(3)治療法(予防法を含む)の開発

	課題	解決の可能	今後の研究
		性	スケジュール
1	上記の検討で明らかにされた遺伝子	可能性が期	まず(1)を行い標的遺伝子を
	に対する分子標的治療法の開発	待される	同定する必要がある。
2	JAK2 チロシンキナーゼ阻害剤の効	可能性が期	JAK2 遺伝子変異を有する
	果検証	待される。	マウスモデルを作成し、動物
			実験を行う。
3			

4. 重症化防止対策について

大多数の患者に対して外来通院によって症状のコントロールが可能な治療法(重症 化防止のための治療法)の確立

	重症化防止のための治療法確	5年以内に解決	解決不可能な	左記理由を解決して
	立について解決すべき課題	できる可能性	場合の理由	いくスケジュール
1	サリドマイドやプロテアソ	不明である。	薬剤が保険	1施設あたりの症
	ームインヒビターによる症		適応でない	例数は少なく、全国
	状改善の可能性を検討する。		ため臨床試	規模の臨床研究を
			験を組む必	行う必要がある。
			要がある。	
2	予後不良因子を持つ症例に	不明である、	症例数が少	研究体制の整備と
	対しては造血細胞移植療法		ないため全	マンパワーを要す
	が有用と考えられるが適応		国組織での	る。
	判定には慎重である必要が		体制が必要	
	ある。		であろう	
3	蛋白同化ホルモン有効性の	可能性が期待		
	前向き検討	される		
4				
5				
		1		